

JACET Kansai Newsletter

No. 89 June 17, 2021

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 植松 茂男 (同志社大学) (Chapter President: Shigeo UEMATSU, Doshisha University)

事務局: 〒650-8586 兵庫県神戸市中央区港島1丁目1-3 神戸学院大学

グローバル・コミュニケーション学部 仁科 恭徳 研究室内

(Chapter Office: c/o Yasunori NISHINA, Faculty of Global Communication, Kobe Gakuin University)

URL: <http://www.jacnet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

コロナ禍で考えること

植松 茂男 (支部長)

本年度も再度厳しいコロナ禍の中で新学期が始まり、先生方は授業で様々な課題に直面されていることと存じます。やはり、これは未曾有の試練であり、われわれ大学英語教育に携わる者にとって、個人では到底太刀打ちできない問題であります。今年度もどうか、新たな授業の方向性に関しまして、先生方のご意見やより良い授業のアイデアのシェアを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度予定しておりました活動は第1回講演会を除き、遠隔にて滞りなく実施されました。詳細は支部HPをご覧ください。多忙な校務にもかかわらず支部運営を支えてくださった副支部長高橋幸先生、照井雅子先生、総務幹事今野勝幸先生をはじめとした幹事の先生方には、心より感謝申し上げます。また、支部大会の企画から運営までご尽力いただいた研究企画委員の先生方、ことに委員長の内山八郎先生には深くお礼申し上げます。本年度は、昨年度オンデマンド形式で実施されました支部大会にて、録画編集に多大なご尽力を賜りました吉田論史先生に委員長として就任いただき、大変心強く思います。

また、この3月末にはみなさまのお手元に例年通り JACET KANSAI JOURNAL No. 23 号を無事お届けできました。これもご多忙を極める精鋭の編集委員の先生方、委員長の高橋先生のひとからならぬご尽力によって出来上がったものです。どうぞ、時間があります時に拝読いただければ幸いです。さらに関西支部では、この4月から支部紀要のPDF化にも取り組みはじめ、創刊号から最新号までをデジタル化して支部事務局に常備することに致しました。こちらにも必要があれば、いつでもお問い合わせ下さい。

さて、変異株の発生やワクチンの調達の遅れで、ますます先が見えなくなったCovid-19パンデミックは、私たち教育に携わる者だけでなく、学生や保護者、そして社会に大きな不安を与えています。殊に語学教育は発声を伴うので、対面形式でマスクを着用し、学習者間の距離を置いた、いわゆる「コロナ定員」の教室

では、なかなか上手くゆきません。教員はマイクを使っても、マスクをかけた学生の発声が聞き取れません。かといって、マイクを回すのも、ラグと接触への心理的抵抗が発生いたします。語学学習に重要なディスカッション等のグループワークも困難です。

この状況下で Zoom や Teams などの同期型授業は大変便利なのですが、学生は前後に対面の授業が入っていたり、自宅のWiFi環境やPCのスペックが整わず、万全ではありません。また非同期型授業の一例、オンデマンドは、好きな時間に学べますが、やり取りができないため緊張感にも欠けますし、学生は規則正しい生活が乱れがちで、受講がどんどん後回しになり、未視聴状態も散見します。結局 e-learning などの課題を別途与える必要すら出てきます。

一方、世界に目を転じると、SATが中止された米国では出願数が有名大学に集中し、例えばColumbia大学では合格者率が過去最低の3.7%まで落ちたとされています (Columbiana Spectator, April 6, 2021)。また International Baccalaureate (IB)も中止されましたので、これらを入学要件にする大学でも大変な混乱が起りました。

長年、授業のデジタル化や遠隔授業の先進的な取り組みに従事してきた Sr John Daniel は、コロナ禍への対応について Prospects 49 (2020: UNESCO IBE / Springer) で次のような持論を展開しています。

「各大学は、アクセスが容易な遠隔授業環境のシステムを早急に構築すると同時に、さまざまなレベルの学生のニーズ、興味に対応したうえで、改善型カリキュラムを履修させ、適正な評価を与えることに注力すべきである。」 (植松サマリ)

さらにまとめとして、こうした憂うべき事態に対する心構えとして、下のようにつながっています。

Although institutions that normally teach face-to-face in classrooms or on campuses will likely return to that mode of instruction with some relief, the special arrangements they put in place during the COVID-19

crisis will leave a lasting trace. The expansion of online learning in tertiary education will further accelerate, and schools will organize themselves more systematically to pursue the aspects of technology-based learning that they have found most useful.

All institutions will derive benefit from the mechanisms that they have put in place to continue their educational and training missions in a time of crisis (p. 95)

われわれも、コロナ禍以前に戻ることにばかりに囚われず、先が見えないこの試練により、従来の大学英語教育のあり方が、多様に変容してゆくよい機会であると捉えるべきであろうと思います。

危機の時こそ、各大学・ディシプリンの垣根を越えて、関西の研究者・教育者が今後の大学英語(外国語)教育のあるべき方向性を考えてゆく場として、JACET 関西支部に集っていただければ幸いです。

最後になりましたが、関西支部独自で「教員公募」ページを用意致しました。緊急性が必要な場合など、是非支部HPの上部バーの右にプルダウンメニューで出てきますので、ご活用下さい。

■ 今年度のイベント・カレンダー ■

今年度に予定されている JACET 関西支部の活動です。是非ご予約ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2021/6/19	第1回支部講演会・支部役員会@オンライン Kansai Chapter 1st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Online
2021/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』24号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for JACET Kansai Journal No. 24
2021/10/16	第2回支部講演会・支部役員会オンライン Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Online
2021/11/20	支部大会・支部総会オンライン Kansai Chapter Conference / Chapter Annual Meeting, Online
2022/3/19	第3回支部講演会・支部役員会オンライン Kansai Chapter 3rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansai Gakuin University, Online
2022/3/31	『JACET Kansai Journal (JACET 関西

支部紀要)』24号刊行

Publication of JACET Kansai Journal No. 24

なお、上記イベントは新型コロナウイルスの感染動向により、日程・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。最新情報は支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) にて随時更新しておりますので、ご確認ください。

Please check the Kansai Chapter website for specific details: <http://www.jacet-kansai.org/>.

■ 2021年度 JACET 関西支部大会 ■

2021年度の支部大会は、オンラインにて開催されます。発表(研究発表、実践報告)の募集期間は、7月1日(木)～8月22日(日)です。今大会では、事前に録画していただくプレゼンテーションビデオのオンデマンド配信と、Web会議システムを利用したリアルタイムでの質疑応答を実施いたします。ふるってご応募ください。

大会日時：2021年11月20日(土)※

※質疑応答や招待ワークショップを行う日時となります。オンデマンド配信期間など、その他の詳細は後日関西支部 Web ページに掲載いたします。方法：インターネットによる動画配信と Web 会議システムの併用(詳細は後日関西支部 Web ページに掲載いたします。)

大会テーマ：ポスト・コロナを見据えた英語教育

暫定プログラム

1. 基調講演
2. 招待ワークショップ
3. 実践報告・研究発表
4. インタラクショナルルーム
5. 出版社プレゼンテーション

Kansai Chapter 2021 Conference

Call for videos of research paper and practical report presentations for the Kansai Chapter 2021 online conference: Kansai Chapter 2021 Conference will be held online. The submission period of abstracts is from July 1 (Thursday) until August 22 (Sunday). Each accepted applicant is to submit a video clip of their presentation(s) by the due date (TBA) and join real-time Q&A sessions on the conference date using an online meeting system. We look forward to your abstract submissions. (Applicants are not required to submit a video clip at the time of application.)

Date: November 20 (Saturday), 2021*

*An invited workshop and real-time Q&A sessions are to be held on the above date. Further details will be posted on the Kansai Chapter's website.

Venue: Online** (On-demand distribution of videos online and real-time Q&A sessions with an online meeting system)

** Further details about the venue will be posted on the Kansai Chapter's website.

Conference Theme: Looking Ahead to English Language Education in the Post-COVID-19 Pandemic Era

Provisional Program Contents

1. Keynote Lecture
2. Invited Workshop
3. Practical Reports and Research Papers
4. Interaction Rooms
5. Publishers' Presentations

■ 2020 年度第 3 回支部講演会の報告 ■

2020 年度第 3 回支部講演会が、2021 年 3 月 20 日 (土) にオンライン (Zoom) にて開催されました。講演には 31 名の参加がありました。講師の上條先生と長尾先生には、最新の研究の動向や先生ご自身の研究とご指導の報告を基に発表して頂きました。質疑応答も活発に行われ、非常に充実した時間となりました。

日時：2021 年 3 月 20 日 (土) 15:30~17:00

場所：オンライン (Zoom)

テーマ：EAP 研究から考えるアカデミックライティング

演題と講師：

(1)「大学教育課程の L2 学生によるアカデミックライティング作成」

上條 武 先生 (立命館大学)

(2)「ジャンルベースドアプローチ準拠ライティング教授法によるアカデミックエッセー指導」

長尾 明子 先生 (龍谷大学)

概要：

「大学教育課程の L2 学生によるアカデミックライティング作成」

上條 武 (立命館大学)

大学で行うアカデミックライティングでは、L2 学生は単純に自分の個人的な考えではなく教養および専門分野での知識貢献を考えなくてはならない。選別した文献の批判評価と整理によりエッセーの議論を構築させていく。しかし日本ではこのような L2 学生のアカデミックライティング作成の研究は少ない。本発表では、まず Bereiter & Scardamalia (1987), Flower (1980), Wingate (2012, 2014)による議論文形式のアカ

デミックライティングモデルの説明を行う。次に国際的な学術英語研究のコミュニティで、いかに L2 学生に対するアカデミックライティングの調査研究が行われているかというトレンドを紹介する。

「ジャンルベースドアプローチ準拠ライティング教授法によるアカデミックエッセー指導」

長尾 明子 (龍谷大学)

第 2 部では、日本人大学生の英語アカデミックライティング能力を伸ばす指導法の構築とその汎用化に関連した実証研究結果を提示する。研究参加者は、一定期間、選択体系機能言語学 (Systemic functional linguistics; SFL)を基盤としたジャンルベースドアプローチ準拠ライティング教授法によるライティングのオンライン授業を受けた。学習者が書いた、事前エッセー (指導無し)・中間エッセー (書き直し; 正確さの測定)・事後エッセー (言語習得の測定)を比較分析し、英語学習者の言語自体の習熟度や ideational meaning (観念構成的意味), interpersonal meaning (対人的意味), textual meaning (テキスト形成的意味)の理解がどのように変化したかを検証した。

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2020 academic year was held on Saturday, March 20th at Zoom with 31 participants. The speakers gave presentations based on the latest research trends and reports of their own research and guidance. There was a lively question and answer session.

Date: Saturday, March 20, 2021

Venue: Online (Zoom)

Theme: Academic Writing in EAP Research

Titles & Lecturers:

“Academic Writing for L2 Learners in Higher Education”
Prof. Takeshi Kamijo (Ritsumeikan University)

“Academic Essay Teaching through the Genre-Based Approach”

Ms. Akiko Nagao (Ryukoku University)

Abstract:

“Academic Writing for L2 Learners in Higher Education”
Takeshi Kamijo (Ritsumeikan University)

Academic writing in undergraduate and postgraduate programmes requires L2 learners to read relevant scholarly source texts and develop an argument in assignment essays, contributing to the knowledge in an academic debate. This feature of L2 learners' academic writing in higher education is fundamentally different from opinion essays L2 students learn in EFL contexts. However, few research studies have investigated L2 learner's academic writing in undergraduate and postgraduate contexts in Japanese universities. The presenter provides the models of academic

writing, particularly argumentative essay writing, which are suggested by Bereiter & Scardamalia (1987), Flower (1980), Wingate (2012, 2014). In addition, the presenter explains the trend of the recent research into L2 learners' academic writing in research communities.

“Academic Essay Teaching through the Genre-Based Approach”

Akiko Nagao (Ryukoku University)

In this section, the results of an empirical study related to a novel teaching method aimed at developing the English academic writing skills of Japanese university students will be presented. This study applied an online teaching intervention to university students in Japan over a semester using a Systemic Functional Linguistics (SFL) and genre-based approach to L2 writing instructions. In doing so, it aimed to develop English as a Foreign Language (EFL) learners' discussion genre (argumentative essay) writing. A comparative analysis of the learners' pre-written essays (without instructions), post-essays (including revising tasks based on feedback; accuracy measurement), and delayed post-test essays were conducted. Written texts were collected from 12 students at three separate time intervals and evaluated using the SFL rubric framework. In addition, this study examined the changes in EFL learners' understanding of ideational, interpersonal, and textual meaning.

■ 2021 年度第 1 回支部講演会のお知らせ ■

2021 年度第 1 回支部講演会は、下記の通り新谷奈津子先生による招待講演を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/meeting.html>) をご覧ください。

1. 日時：2021 年 6 月 19 日（土）15:30～17:00
2. 場所：オンライン（Zoom）（アクセス情報は追ってお知らせします）
3. 演題：Comparative studies of TBLT and other approaches
4. 講師：新谷 奈津子 先生（関西大学）
5. 概要：Comparative method studies seek to determine which of two or more language teaching approaches is most effective. They are notoriously difficult to implement, and many suffer from a number of design problems. Ellis and Shintani (2014) listed 6 design features of a sound method comparative studies: 1) including pre-tests, 2) including a control group, 3) examining process features of the instruction, 4) controlling teacher-factors, 5) controlling test-bias, and 6) investigating the effects of individual learner differences. In this talk, I will focus on comparative

method studies that have compared TBLT with some other teaching approach and evaluate them in terms of the conditions that Ellis and Shintani proposed. I will first distinguish two types of comparative method studies – ‘program evaluations’, in which TBLT is compared to some pre-existing program and ‘focused comparative studies’, in which the comparison between TBLT and another approach was built into the design of the study. Based on my examination, I will offer some guidelines for conducting comparative method studies.

6. 参加費：JACET 会員・非会員共に無料。必要に応じて事前申込要。

7. 使用言語：発表は日本語、質疑は日本語・英語

Kansai Chapter First Lecture Meeting of AY 2021

The Kansai Chapter First Lecture Meeting of the 2021 academic year will be held as follows:

1. Date: Saturday, June 19, 2021, 15:30-17:00
2. Venue: Zoom (Online)
3. Title: Comparative studies of TBLT and other approaches
4. Speaker: Prof. Natsuko Shintani (Kansai University)
5. Abstract: Comparative method studies seek to determine which of two or more language teaching approaches is most effective. They are notoriously difficult to implement, and many suffer from a number of design problems. Ellis and Shintani (2014) listed 6 design features of a sound method comparative studies: 1) including pre-tests, 2) including a control group, 3) examining process features of the instruction, 4) controlling teacher-factors, 5) controlling test-bias, and 6) investigating the effects of individual learner differences. In this talk, I will focus on comparative method studies that have compared TBLT with some other teaching approach and evaluate them in terms of the conditions that Ellis and Shintani proposed. I will first distinguish two types of comparative method studies – ‘program evaluations’, in which TBLT is compared to some pre-existing program and ‘focused comparative studies’, in which the comparison between TBLT and another approach was built into the design of the study. Based on my examination, I will offer some guidelines for conducting comparative method studies.
6. Fee: JACET member and nonmember, free. Need to pre-register.
7. Main language: Japanese for presentation with English slides. English & Japanese in the Q&A session.

Details are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■JACET 創立 60 周年記念ウィーク (オンライン, 2021 年 8 月 25 日-30 日)■

JACET 創立 60 周年を記念して、8 月に連続 5 日間の記念行事がオンラインにて開催されます。

まず 8 月 25 日 (月) および 26 日 (火) に第 48 回 JACET サマーセミナーが、続いて 8 月 27 日 (金) から 29 日 (日) まで JACET 第 60 回記念国際大会が開かれます。すでにプログラムが JACET の HP 上で公開されており、参加登録も始まっています。

皆様のご参加をお待ちしております。

●第 48 回 JACET サマーセミナー

日時：2021 年 8 月 25 日 (水) - 26 日 (木)

場所：オンライン

テーマ：時代が変わる、指導が変わる、教材が変わる
—わたしたちは何をすべきか

●JACET 第 60 回記念国際大会

日時：2021 年 8 月 27 日 (金) - 29 日 (日)

場所：オンライン

テーマ：時代の変化を乗り越える英語教育—Society 5.0 という現実を迎えて

概要：

本記念大会では、この未曾有の変化の局面にあつて、「教室」という教育空間を共有できない状況における大学教育の現実を見つめ直し、他学会やアジアを始めとする各国と協力しながら、この環境下における最適な英語教育とは何か、われわれの目指すべき英語教育の姿とは何か、そもそも学会の本来の役割とは何かを今一度問い直す場としたい。

JACET は、今大会で 60 回目の節目を迎えるが、次の 10 年はこれまでの 10 年、20 年とは大きく異なる時代になるであろう。次の 10 年が大きな飛躍の時代となるか、それとも混乱と低迷の時代となるかは、まさにこの節目をどう乗り切るかにかかっている。教材、指導法や学習法、カリキュラムや評価、コミュニケーションの方法など、ありとあらゆる面での変化が求められている中、変わらなければならないものと変わらないもの、変わってはならないものを見極め、これまでの総括を行いつつ、次の 10 年を乗り越えるための新たな英語教育の姿を模索する大会となることを願い、「時代の変化を乗り越える英語教育—Society 5.0 という現実を迎えて」という大会テーマを掲げることとする。

JACET 60th Anniversary Commemoration Week (ACW) Reflection and Reconnection

●The 48th JACET Summer Seminar

Dates: August 27th (Fri.)—August 29th (Sun.), 2021

Venue: Online

Theme: Changing Times, Changing Instruction,
Changing Materials: How Should We Respond?

●The JACET 60th Commemorative International Convention

Dates: August 27th (Fri.)—August 29th (Sun.), 2021

Venue: Online

Theme: English Language Education to Endure
Changing Times: Facing the Reality of Society 5.0
Abstract:

In this time of unprecedented change, we would like our convention to take a fresh look at the reality of university education where the educational space of the “classroom” cannot be shared. In cooperation with other academic societies, and with other countries in Asia and elsewhere, we want the convention to be a place to think afresh about what an optimal English education might be within such an environment, about the kind of English education we should aim for and, indeed, about the role academic societies such as ours ought to truly play in this.

With this 60th convention, JACET marks a turning point. The next decade, however, will most likely be very different from the previous 10-20 years. Whether it will witness great leaps forward or be a period of turmoil and stagnation, depends very much on how we work through this turning point. As we are asked to make changes in teaching materials, teaching, and learning methods, curriculum and assessment, and communication methods, we must ascertain what must change, what will not change, and what should not change. While assessing our past activities, we hope this convention will provide an opportunity to search for a new English language education that will help us weather the next decade. For these reasons we announce the convention theme - “English Language Education to Endure Changing Times: Facing the Reality of Society 5.0” .

■ 紀要編集委員会より ■

今年 3 月に刊行いたしました『JACET 関西紀要』第 23 号は、研究論文 1 本、研究ノート 2 本、実践報告 2 本に加えまして、多くの先生方の招待論文を掲載いたしております。Special Invited Papers として泉恵美子先生、平塚貴晶先生、藤田卓郎先生、玉

井健先生に、そして Invited Papers として神澤克徳先生・羽藤由美先生、光永悠彦先生・神澤克徳先生に御寄稿いただきましたこと心より御礼申し上げます。またお忙しい中御協力くださいました査読委員の先生方、そして何より御投稿くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、7月1日より第24号(2022年3月刊行予定)の投稿受付が始まります。皆様の日頃の貴重な研究や教育実践の成果を、ふるって JACET 関西支部紀要第24号に御投稿いただきたく心よりお待ち申し上げます。なお今回の第24号から、APA第7版の論文書式を採用いたしますので、投稿される皆様におかれましては、論文テンプレート、チェックリスト(現在改定中です)等を御確認のうえ投稿書式にはくれぐれも御留意くださいませ。第24号の投稿方法や投稿要領につきましては、支部ホームページ(<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>)で確認いただけます。

We welcome your submissions for the next issue, *JKJ* No. 24, for which online registrations begins on July 1st, 2021. From *JKJ* No. 24, APA 7th style will be adopted instead of APA 6th.

The guidelines and requirements for submission procedures are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org/submission.html>). The Editorial Committee hopes you will actively present your research and educational practices through our journal.

■ 事務局より ■ Messages from Kansai Chapter

4月1日より、支部事務局が神戸学院大学 仁科恭徳研究室に移りました。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。連絡先は本ニューズレターの冒頭をご覧ください。

本年度の体制は、植松支部長、照井副支部長、里井副支部長を中心として、総務幹事を仁科・今野勝幸先生、財務幹事を松田紀子先生・細越響子先生、紀要幹事を斎藤倫子先生・竹田里香先生、広報幹事を多田さおり先生・藤村敬次先生が務めます。この新体制で協力し合いながら、支部の活動を会員の皆様にとって有意義で、魅力的なものにしていきたいと考えております。

また、本年度の研究企画委員会の体制として、委員長を吉田諭史先生、副委員長をハーバート久代先生、山岡華菜子先生、矢野浩二郎先生、石野未架先生、山下美朋先生がご担当されることになりました。心強い布陣で支部大会を盛り上げてまいります。皆様のあたたかいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2020年度でご退任なさった先生方から、以下の

メッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。これまで支部のためにご尽力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

■ 退任のご挨拶 ■ Messages from Kansai Chapter Officers Completing Their Term of Office

◎ 旧財務幹事 三木浩平先生(近畿大学)
2017年度から広報幹事として JACET 関西支部の運営に2年間関わらせていただいた後、財務幹事として2年間、大変お世話になりました。特に財務正幹事となった2年目の2020年度はコロナウィルスの影響でほぼ全ての行事がオンライン形態での開催となり、これまでとは異なる対応が必要になる場面も少なからずありました。しかし、そのような状況の中でも周囲の先生方に助けていただきながら、なんとか任期を終えることができました。JACET 関西支部で多くの先生方とご一緒させていただけたことは私自身にとって非常に貴重な経験となりました。心より感謝申し上げます。

◎ 旧紀要幹事 阪上潤先生(立命館大学)
1年間紀要幹事としてお世話になりました。急遽務めることになりましたが、温かく迎えていただき、支えてくださった紀要編集委員や幹事の皆様に心より感謝申し上げます。色々な先生にお手数をお掛けしましたが、学会運営や学会誌の作成にどれだけの力が注がれているか知ることができたことは、大きな学びとなりました。この貴重な経験を、今後に活かしていきたいと思います。

◎ 旧広報幹事 鎌倉義士先生(愛知大学)
広報幹事として二年間関西支部にはお世話になりました。以前も同職を経験していたとはいえ、昨年度のコロナ禍によって学会運営が全く異なりました。その中でも支部役員と研究企画委員のお力添えの下、オンライン支部大会を形にできたことは嬉しい限りでした。今後も支部行事に参加し、関西支部の更なる発展に一会員として期待いたします。これからもよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員 赤尾美和先生(近畿大学)
2017年度から2020年度の4年間、研究企画委員としてお世話になりました。支部大会の企画を通して素晴らしい先生方と交流を深め、たくさんのことを学ばせていただきました。また、今まで当たり前のように参加していた支部大会のありがたみを痛感することもできました。今後は一会員として関西支部の益々のご発展に少しでも寄与できればと願っております。本当

にありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員 磯辺ゆかり先生(京都精華大学)
2017年度から2020年度までの4年間、研究企画委員を担当させていただきました。企画ワークショップや基調講演の記録などを担当させていただく度に、実に多くのことを学ばせていただきました。実りある学びの場を提供して下さったことにあらためて感謝いたします。今後ともJACET 関西支部のますますのご発展をお祈りしております。

◎ 旧研究企画委員 内山八郎先生(徳島大学)
2018年度よりお世話になってまいりました。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による困難な状況下、多くの先生方のご指導・ご協力をいただき、関西支部としては初のオンライン・オンデマンド形式による支部大会を、無事に終えることができました。この場をお借りして、ご指導・ご協力くださった先生方とご貢献くださった参加者の皆様にお礼申し上げます。JACET 関西支部の今後の更なる発展をお祈りいたします。

◎ 旧研究企画委員 大槻きょう子先生(奈良県立大学)
研究企画委員として2期4年お世話になりました。支部大会の準備など多様な活動に参加させていただきました。至らないことも多く、知らないところでたくさん先生方にお世話になっていたと思います。ありがとうございました。普段の業務が大変お忙しい先生方の献身的な活動に、私ももっと精進せねばと刺激を受けておりました。任期中出会えた先生方、経験したことすべてが財産となっています。今後のJACET 関西支部の益々のご発展をお祈りしています。

◎ 旧研究企画委員 表谷純子先生(神戸学院大学)
広報幹事として2年間、研究企画委員として2期4年間お世話になりました。この6年間は、多くの先生方に支えられ、たくさんのお話を学び、様々な貴重な経験を得る時間でした。昨年は、コロナ禍でのオンデマンド方式の支部大会という前例のない活動の実施にあたり、研究企画委員長はじめ皆さまの発想力、行動力、細やかなお心遣いに何度もお力を頂きました。心より感謝申し上げます。そしてJACETの益々のご発展と皆様のご活躍をお祈りしております。

◎ 旧研究企画委員 近藤睦美先生(京都外国語大学)
2017年より2期にわたりお世話になりました。有能な先生方との協働は非常に刺激的なものでした。ありがとうございました。今後は、一会員として講演会や研究会に参加させていただきます。引き続きどうぞよ

ろしくお願いいたします。

◎ 旧研究企画委員 Dorota Zaborska 先生(平安女学院大学)

I would like to express my sincere gratitude for the opportunity to be part of the Kansai Chapter Committee for four years, and to witness how much work is always being done behind the scenes. In particular, I enjoyed being involved in the review process for the annual conferences. Through the mentorship of many professors, I myself learned a lot. The time at the committee was a very satisfying experience for me, both socially and professionally.

大変お世話になりました。感謝申し上げます。これから一般会員としても積極的に参加したく存じます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員 松村優子先生(近畿大学)
2期4年間、研究企画委員を担当させて頂きました。支部大会の企画・運営などに微力ですが携わり、貴重な経験をさせて頂きました。また企画委員や役員の先生方と交流させて頂き、大変お世話になりましたことを感謝申し上げます。JACET 関西支部の今後一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

◎ 旧関西支部紀要編集委員 笹尾洋介先生(京都大学)

1期2年間、関西支部紀要編集委員としてお世話になりました。研究者としても教育者としても経験豊富な先生方と仕事をさせて頂く中でとても多くのことを学びました。ご迷惑をおかけすることも多々あったと思いますが、ご指導いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧社員 日野信行(大阪大学)
社員としてまことにお世話になりました。関西支部の先生方にはご厚誼を賜り、本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。どうかこれからも会員としてよろしくお付き合いいただければ幸いです。いつも有難うございます。

◎ 旧社員 深山晶子(大阪工業大学名誉教授)
2期、社員として大変お世話になりました。前年度より、なかなか会議や研究・講演会に出席がかなわないことがありました折に、寛容なご対応をいただき本当に感謝しております。コロナ禍であっても貴重な学術情報を発信し続けている貴学会には多くのことを勉強させていただきました。教育現場が激変する中、学会の役割は益々大きくなっていくことと思います。今後とも、貴学会のさらなるご発展を祈念しております。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号等）が変わられた方は、必ずご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。会員情報の変更のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone number, and other information to the **JACET Main Office** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).